



SERVICE LEARNING CENTER

# ANNUAL REPORT 2025

立命館大学  
サービスラーニングセンター  
活動報告 2025





# 活動報告 01 きくすいほこ 祇園祭 菊水鉾 ボランティアプログラム 2025

2025.7.11 FRI - 18 FRI 【内 7日間】

日本三大祭（京都三大祭）の一つである祇園祭。「地域課題への関心醸成」「伝統文化ならびに芸術振興に寄与すること」を目的に4年目のプログラムとして実施、事前ガイダンスでは千年以上受け継がれてきた祇園祭の背景や歴史を学び、理解を深めたくて実際の取り組みに結びつけています。計7日間でシフト数139（実数60名）の学生が、巫女や裏方として地域の方と共に活動を行いました。参加学生からは「準備の際には『昨年もいたよね』とお声がけしていただき、中には名前を覚えてくださる方もいらっしゃり、地域社会と関わることの楽しさを実感することができました。」との振り返りがありました。山鉾巡行では、4名の学生が曳き子として参加しました。当日は激しい雨に見舞われ、足元の悪い中での巡行となりましたが、学生たちは声を掛け合いながら懸命に山鉾を曳き、市中を力強く練り歩きました。

また、正課科目への受講の懸け橋として、課外活動を通じた学びの接続もみられました。次年度も受け入れ団体との連携のもと実施を予定しています。



# 活動報告 02 おおふなとさかりちよう 大船渡盛町七夕まつり サポートプロジェクト 2025

事前学習 2025.6.21 SAT・7.12 SAT / 現地活動 8.2 SAT - 9 SAT 【7泊8日】

事後学習 10.11 SAT / 事後活動 11.2 SUN

大船渡市と大学による協定<sup>※1</sup>にもとづき毎年実施しているプロジェクトです。6・7月の事前学習に始まり、8月2日から9日まで7泊8日の現地活動を行いました。正課外プログラムの参加者と、教養科目「平和人権フィールドスタディ」の受講生およびES<sup>※2</sup>の合計32名が、「盛町灯ろう七夕まつり」の準備から運営、片付けまでを地域の方と一緒にいきます。今年度は2月に発生した林野火災の現場（綾里地区）を訪れる学生もあり、地域の暮らしのあり方について学びを深める時間となりました。さらに11月に大阪いばらきキャンパスで開催されたGlobal Weekでは仕入れたサンマを現地の方と共に炭焼きにして販売するなど、大船渡の魅力学内外に伝える機会も提供しています。

※1：「災害復興に向けた連携協力に関する協定」を2012年に締結、2016年からは「包括連携協定」 ※2：教育サポーター



# 活動報告 03 たかしま 高島ワークキャンプ 2025

事前学習 2026.2.2 MON

現地活動 2.12 THU - 14 SAT 【2泊3日】 / 事後訪問 3.7 SAT

高島ワークキャンプは、2010年から滋賀県高島市社会福祉協議会との連携で「高島限界集落活性化プロジェクト」として始まり、「雪かき」を中心とした地域住民との交流・地域活性化の活動を15年にわたり開催してきた企画です。大学のない高島市に学生が訪れることにより、地域に新たな活力をもたらすことが期待されています。

今年度は、高島地区、朽木地区、マキノ地区でニーズ調査を行った結果をもとに、過疎地域での雪かき清掃活動、中学生を対象にした進路選択や現在の大学生活の紹介、子どもたちや高齢者との交流会など多岐にわたるプログラムを企画・実施しました。参加した21名の学生たちの活気あふれる姿と地域の方々の暖かい笑顔が印象的でした。今後も高島市をフィールドにした参加型学習プログラムによって、地域の活性化や課題解決の手法を学ぶ機会を提供していきます。



# 活動報告 04 夏休みボランティア プログラム

2024年度から大学周辺の地域を舞台に、地域の方々と一緒に活動しながら「市民として社会に関わる力」を育むプログラムを開始しました。学生たちは、地域が抱える課題に向き合い、現場での実践を通して多様な人々と関わりながら、学びを深めています。活動の一つとして、小学生の夏休みや放課後の時間に寄り添い、子どもたちが安心して過ごせる「居場所づくり」をサポートしました。また、循環型養鶏農家での作業や山の手入れに参加し、自然と人との関わりを学ぶとともに、循環型の暮らしや地域の持続可能性について考える機会にもなりました。さらに、発達障がいのある子どもを支援する現場にも参加し、子どもたちが人と関わる楽しさを学ぶ場づくりを体験しました。

こうした活動を通じて、学生たちは地域の人々とのつながりの中で「自分にできること」を考え、市民としての視野を少しずつ広げています。これらの経験は、サービスマーケティングの正課科目の受講へとつながり、学びをさらに深めていくきっかけとなっています。

受入団体 一般社団法人みずとわ / 特定非営利法人み・らいず2 / うちラボ



# サービスラーニング科目紹介

SERVICE LEARNING SUBJECTS

サービスラーニング科目

詳しくはこちら



## 01 地域参加学習入門



350人規模の講義科目です。大学と地域を往復して学ぶ「サービス・ラーニング」という学び方の基本を理解します。現代社会の多様な課題について関心を向け、異なる視点を理解し、地域を見る目を養った上で、現場で社会課題に取り組む多彩な実践者のお話から地域に入って活動するための心構えを学び、自身のキャリアについて考えます。

## 02 現代社会とボランティア



100人規模の演習科目です。ボランティアに関する理解を深めた上で、授業内活動としてキャンパス内外でボランティア活動に取り組みます。チームに分かれてボランティア活動を行うだけでなく、それらの体験の言語化を通じて、他者を尊重しながら社会の中で責任を持って役割を果たす市民としての資質（シチズンシップ）を磨いていきます。

## 03 現代社会のフィールドワーク



80人規模の演習科目です。フィールドワークとは何かを理解した上で、個別具体的な社会問題（イシュー）をテーマに設定し、グループワークを中心にその本質を掘り起こします。フィールドワークを行いながら、社会問題に関するさまざまな情報を集め、論理的な思考を踏まえて争点を捉え、課題に対する関わり方を判断する力の向上を図ります。

## 04 シチズンシップ・スタディーズ



30人規模の演習科目です。キャンパス周辺で活動する各種機関とのパートナーシップのもと、地域社会で行われる事業に参加し運営を支えながら、そこに携わる人々の役割や責務、社会問題に対する考えや姿勢を体験的に学びます。現場と教室を往還するサービス・ラーニング手法により、倫理観・正義感・責任感を身につけ、自己形成していきます。

### サービスラーニング科目



▲立命館大学「教養教育の6つの科目群」の内、サービスラーニング科目はC群に該当します

## シチズンシップ・スタディーズ 受入団体の声

VOICES FROM HOST ORGANIZATIONS



公益財団法人京都文化財団 / 京都府立堂本印象美術館

谷本 栄作 様

堂本印象美術館  
活用方法発掘プロジェクト

学生とともに5年ほど取り組みを続ける中で、毎年新しい視点や発想に出会ってきました。今年度は「美術館にまずは一歩踏み入れてもらうこと」をテーマに、地域の人々と一緒に美術館という場のハードルを下げる仕掛けを考えました。学生との対話からは、自分たちの知らない世界やコミュニティ、流行に触れる学びが多く、その声は美術館の今後の企画づくりにも生かされています。互いに刺激を受け合いながら、面白い挑戦ができていると感じています。



草津宿街道交流館 主任

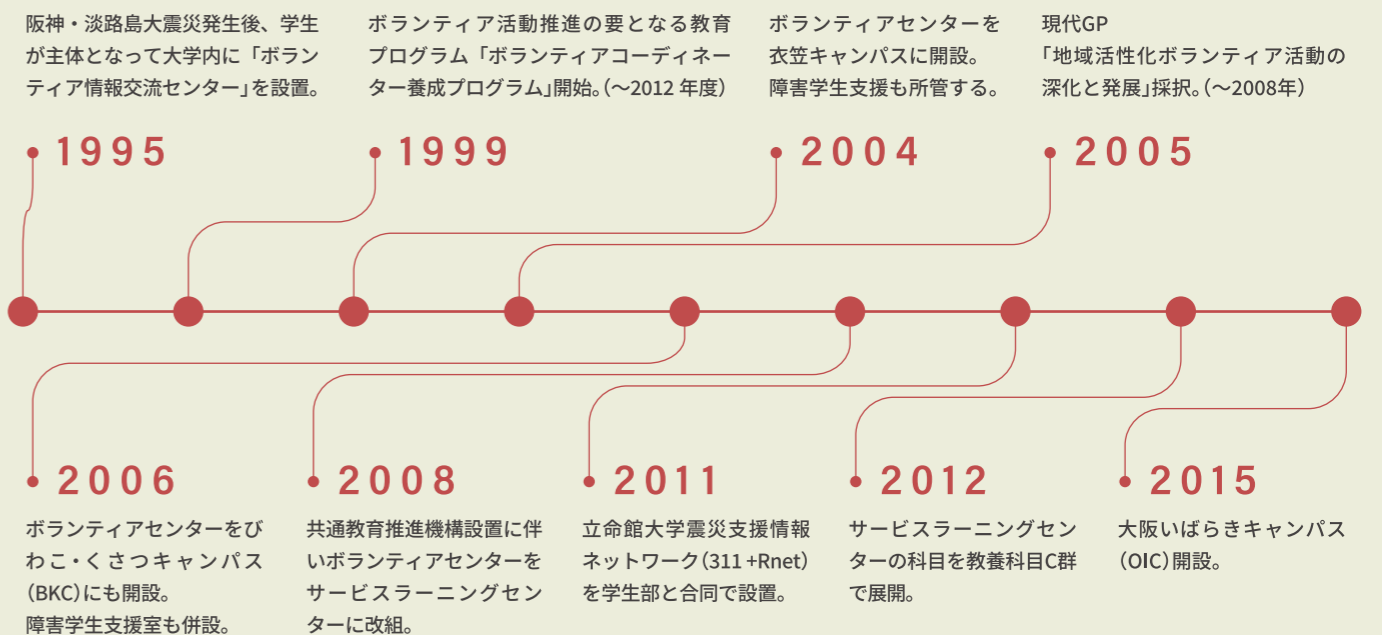
八田 将史 様

草津宿魅力発信プロジェクト

学生には、草津宿の魅力若者目線でSNSを通じて発信するプロジェクトに取り組んでもらいました。特に印象に残っているのは、学生のフットワークの軽さです。実際に草津宿を歩き、自分たちで動画を撮影し発信していく姿に、若い力の大きさを実感しました。学生と関わる中で、交流館としても広報の在り方を見直し、より若い世代に届く発信とは何かを考えるようになりました。新しい視点を得られる、非常に良い機会だったと感じています。



### サービスラーニングセンターの歩み



# 2026年度 スタッフ紹介

2026 SERVICE LEARNING CENTER STAFF INTRODUCTION

## 教員



サービラーニングセンター センター長  
**寺脇 拓**  
 TERAWAKI TAKU  
 経済学部 教授  
 【専門分野】・環境経済学 ・非市場評価 ・社会調査論



教養教育センター 副センター長  
**秋吉 恵**  
 AKIYOSHI MEGUMI  
 共通教育推進機構 教授  
 【専門分野】  
 ・社会開発 ・農漁村開発（振興） ・エンパワメント



**山口 洋典**  
 YAMAGUCHI HIRONORI  
 共通教育推進機構 教授  
 【専門分野】  
 ・グループ・ダイナミクス ・国際ボランティア  
 ・アートマネジメント



**小辻 寿規**  
 KOTSUJI HISANORI  
 共通教育推進機構 准教授  
 【専門分野】  
 ・地域社会 ・まちづくり ・社会的包摂



**高橋 結**  
 TAKAHASHI YU  
 共通教育推進機構 准教授  
 【専門分野】  
 ・まちづくり ・中間支援 ・コミュニティビジネス

## 専門職員（主事）

各キャンパス1名ずつ、専門スタッフとして配置されています。ボランティアや市民活動に携わってきた経験などをもとに、地域に出ることの楽しさと、そこから学びを深めることのおもしろさを伝える立場で、地域とのつながりづくり、正課外プログラムの企画運営、学生コーディネーターのサポート、サービラーニング科目の一部運営などに携わっています。



**谷尾 展子**  
 TANIO NOBUKO  
 衣笠  
 キャンパス担当

大学と地域をつなぐネットワークの拠点として、学生と地域が互いに学びあえる関係性を構築できるようにサポートします。学生コーディネーターと共に成長できる環境づくりを目指します！



**新宅 規子**  
 SHINTAKU NORIKO  
 びわこ・くさつ  
 キャンパス担当

一人でも多くの学生がボランティア・地域活動に参加し、人との繋がりの中で多くの経験をつみ、学びを得られるよう、サポートしています。3年目は新たな取り組みにもチャレンジしていきたいです。



**西川 美裕**  
 NISHIKAWA MIYUKI  
 大阪いばらき  
 キャンパス担当

自分が持つ力を最大限に活用して、今できることを全力で取り組む気持ちを大切にしています。学生・地域・大学の橋渡し役として、皆さまの活動が充実したものになるように最善を尽くしたいと思います。

## 専任職員

サービラーニングセンター全体の運営マネジメントを行う職員で、正課担当と正課外担当が配属されています。異動やジョブローテーションを伴うポジションですが、教員および主事と連携をとりながら、サービラーニングセンターの柱である「ボランティア活動の支援」「サービラーニング科目の開講」「ボランティア活動に関する情報発信・啓発」を統括しています。

## 学生コーディネーター

教職員と共にサービラーニングセンターの運営を担う学生スタッフで、3キャンパスで合計94名が所属しています。  
 ※ 2026年1月現在

## アドバイザー

**河井 亨** 立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授  
**横関 つかさ** NPO 法人山科醍醐こどものひろば常任理事／元立命館大学サービラーニングセンター主事  
**秋吉 大地** あきよし制作舎  
**太田 興** 防災寺子屋・京都

# 学生コーディネーター制度について

STUDENTS COORDINATOR SYSTEM

学生コーディネーターは、学生同士が主体的に学び合い、支え合う「ピアサポーター」として学生と地域をつなぐ活動を行っています。

具体的には、サービラーニングセンターのミッション&ポリシーに基づいて、学生によるボランティアや地域社会に貢献する活動を促進・支援するために、ボランティアや地域活動に関する相談対応、活動に関する情報の収集や発信、地域と学生が出会うきっかけとなるプログラムの企画などを行っています。

学生コーディネーターは年に2回募集を行い、書類選考・面接を経て任命されます。募集に際しては、ボランティアや地域貢献活動の経験があること、もしくはサービラーニング科目を受講しているといった条件を設け、年間を通じて各種研修を行うなど、学生コーディネーターの学びと成長を支援する仕組みを整えています。

【学生コーディネーター数】※過去3年の推移									
年度・セメスター	衣笠	BKC	OIC	計	年度・セメスター	衣笠	BKC	OIC	計
2023年度春学期	29人	26人	23人	78人	2023年度秋学期	31人	29人	22人	82人
2024年度春学期	28人	29人	17人	74人	2024年度秋学期	28人	28人	31人	87人
2025年度春学期	34人	32人	28人	94人	2025年度秋学期	33人	33人	28人	94人



## オリエンテーション企画

春のオリエンテーションにおいて、大学での多様な学びを紹介する機会として、入学後の学生生活で挑戦できる各種プログラムやイベントなどを紹介する取組みです。各キャンパスの学生コーディネーターも、サービラーニングセンターや学生コーディネーターのこと、地域のこと、ボランティアのことなどを広く知ってもらうために様々な催しを企画しています。



## 学生コーディネーター研修

学生コーディネーターとして活動していくために必要な知識や心構えを学ぶ「新メンバー研修」、組織運営のための「チーム力向上研修」、活動報告や方針を発表する「年度末研修」などを、3キャンパス合同で実施しています。また、学外で行われるボランティアコーディネーションに関する研修などについては、参加費や交通費を補助し、積極的に挑戦する学生を支援しています。



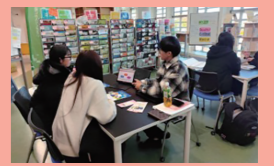
## 大学間交流

他大学のボランティアセンターを訪問したり、関西の大学ボランティアセンター学生スタッフのネットワーク組織である「KAGAVOCO」が主催する「VOLUNTEER EXPO」に出展したり、連携・交流の場に積極的に参加しています。他大学のことを広く知ることにより、自大学の活動やその展開について見つめ直し、学生コーディネーターとしての力量向上を目指しています。



## 窓口コーディネーション

学生から寄せられるボランティアや地域活動に関する相談への対応、ボランティアや地域活動についての啓発・促進・情報発信など、各キャンパス窓口でのコーディネーションも学生コーディネーターの大切な役割です。そのため、職員と共に地域団体へヒアリングに出かけたり、キャンパス内で「出張コーデ」を開催するなど、様々な活動を行っています。



## 学生の声



**飯沼 和希**  
 産業社会学部2年生

学生や地域の方々と活動する中で、さまざまな立場の人の考えに触れることができ、視野が広がっただけでなく、学びの幅も広がりました。また、ボランティアを通じて社会参加することで、自分自身の成長に繋がっています。



**吉川 鳴海**  
 総合心理学部2年生

学生コーディネーターの活動を通じて、自分がなんとなく感じていた気持ちを言語化する力が身についたと思います。学生に向けたボランティア先の雰囲気や魅力の伝え方を考える過程で、自分の体験を振り返り、より深く心に刻むことができるようになったと思います。



**木下 朋香**  
 食マネジメント学部3年生

学生コーディネーターの活動を通して、相手の立場に立って考えることの大切さを学びました。地域の方と学生が繋がる場面に関わるとき、双方の笑顔を見ることが何より嬉しく、活動のやりがいを感じます。

Ichikawa Haruto  
**市川 暖人**

衣笠  
キャンパス **京都**  
産業社会学部 2 回生

堂本印象美術館  
活用方法発掘プロジェクト  
※2025 年度 PJ

学生コーディネーターとしての活動を通じて、この科目の存在を知りました。先輩方の受講体験を聞き、自分も挑戦したいと考えたのがきっかけです。また、兵庫出身ということもあり、元々「防災」への関心が強く、京都で一人暮らしをする中で「いざという時に自分に何ができるか」を模索したいという思いもありました。大学での学びを単なる知識で終わらせず、現場での対話を通じて、多様な世代の方々と関わりながら成長したいという動機で、一歩を踏み出しました。

Okuno Yuto  
**奥野 雄登**

びわこ・くさつ  
キャンパス **滋賀**  
経済学部 4 回生

草津宿映えスポットマップ  
製作プロジェクト  
※2023 年度 PJ

シラバスで見た「フィールドワーク主体」という珍しい授業内容に強く惹かれたのがきっかけです。普段の経済学部の講義では、学んだ知識を社会でどう活かせるのだろうと、モヤモヤとした不安を感じることもありましたが、大学で得たスキルを学外の実践的な場で試し、今の自分に何が足りないのかを明確にしたい。そして地域の方々と直接関わることで、社会の一員としての責任感を養いたい。そう考えて、受講を決めました。

Fujii Aina  
**藤井 愛菜**

大阪いばらき  
キャンパス **大阪**  
経営学部 2 回生

国際理解教育  
外国人サポーター派遣事業  
※2025 年度 PJ

当初は別のボランティアを検討していましたが、募集案内を見て「新しいことに挑戦しよう」と直感的に応募したのが始まりです。将来的に留学を志望しているため、異文化理解への関心が非常に高く、自分が「外の人」として新しいコミュニティに入る際の振る舞いや姿勢を現場で学びたいと考えていました。大学の教室では得られない、現場と大学を往復する「振り返り」のプロセス。その経験を通して視野を広げ、新たな学びを発見したいという思いが、受講への背中を押してくれました。

INTERVIEW  
**01**



## キャンパスを出て、社会を歩く。 地域と大学を往復して見つけた、 それぞれの学び。



協力：高橋 結 先生  
共通教育推進機構 准教授  
【専門分野】・まちづくり・中間支援・コミュニティビジネス

## 「シチズンシップ・スタディーズ」受講生による **CROSS TALK**

### 教室を飛び出した先にある、 対等な学びの場

**高橋先生**：「シチズンシップ・スタディーズ」を受講してみて、今どんなことを感じていますか？

まずは、受講して感じた「この授業ならではの魅力」から聞いてみたいと思います。

**市川**：僕は学生コーディネーターとしても活動していますが、実際に受講して驚いたのは「世代の幅」です。大学生活では、先生と学生との関係が中心ですが、授業では大人の方々と同様に話すことが求められました。

**高橋先生**：大学を飛び出すと、現場では一人の「大人」として扱われますからね。

**市川**：はい。社会人の方々とは肩を並べて議論する経験は、新鮮で背筋が伸びる思いでした。

**藤井**：私は、毎週の「振り返り」が印象的でした。現場に行って終わりではなく、教室に戻って「なぜあの時、そう感じたか」を言語化する。仲間との対話で、自分一人では気づけない視点をもらえるのが面白かったです。

**奥野**：藤井さんに同感です。実際に動いてみると、大学で学んだ知識を外で試すことの難しさと面白さを痛感しました。現場での試行錯誤を整理して、また次の学びに繋げていく。外に出るだけでなく、そこで得たものを持ち帰って深める。そのサイクルこそが、他の授業にはない魅力だと感じました。

### 現場で直面した「正解のない問い」と、 試行錯誤の裏側

**高橋先生**：現場では壁にぶつかることも多かったはずですが。どう乗り越えたのか、詳しく教えてください。

**市川**：僕は美術館のプロジェクトで、来場者を増やす企画を考えました。当初は館内のことばかり考えていたのですが、美術館って実は制約がすごく多くて。

**奥野**：触ってはいけないものも多いですね。

**市川**：行き詰まった時、メンバーから「館外の入り口で何かやろう！」と意見が出て、入り口の前に「こたつ」を置くことに決めました。実は美術館の入り口はバス停からだと少し見えにくい位置にあったので、そこを逆手に取ったんです。こたつを置いたことで、バス停を利用する方々が足を止め、美術館の存在に気づいて興味を持ってきて。自分一人では辿り着けなかったアイデアでした。

**高橋先生**：制約を逆手に取った、素晴らしい発想の転換でしたね。藤井さんはどうでしたか？

**藤井**：私は国際支援団体で、子どもたちに異文化を紹介しました。最初は「正しい知識を教えなきゃ」と必死でしたが、教科書通りの説明では全然響かなくて……。

**市川**：子どもたちの興味を引くのって、難しそうですね。

**藤井**：だから「教える」のをやめて、ゲームを通じて遊びながら学べる形に変えたんです。知識がなくても「楽しい」という入り口から入れるようにすることで、異文化への最初の一步をできるだけ小さくしたかった。相手の立場に立ち、「どうすればワクワクしてもらえるか」を想像し続ける大切さを学びました。

**奥野**：僕は、資料館のライトアップイベントでのアンケート調査が大きな経験でした。データを集計するだけでなく、分析の段階で先生や仲間、他のプロジェクトのグループからも意見をもらいました。違う現場を経験してきた人たちの視点が入ることで、自分たちだけでは見えていなかった地域の傾向が浮かび上がってきて。

**高橋先生**：かなり粘り強く分析されましたね。

**奥野**：他者の視点が入ることで、現場の課題が鮮明に見えてくる。自分一人で向き合っていたら気づけなかったことが、対話の中で表れてくる。客観的に物事を見る楽しさと難しさを知りました。

### 「自分事」として引き受ける、 社会への責任感

**高橋先生**：授業での経験を経て、自分自身の意識に変化はありましたか？

**市川**：僕は兵庫県出身で防災に関心がありましたが、受講後は、京都で一人暮らしをする学生たちの不安も「自分事」として捉えるようになりました。現場で学んだ「対話の力」を活かして、これからは学生同士でも具体的な行動を話し合える場を作っていきたいです。

**藤井**：私は、未知の課題でも「今の自分に何ができるか」をまず考える姿勢が身につきました。完璧な知識がなくても貢献できる方法はある。その勇気は、これからの大きな支えになります。

**奥野**：僕は「責任感」の解像度が上がりました。単位のためではなく、自分の行動が地域の景色を少しずつ変えていく。その重みを実感できたことは財産です。卒業後は金融の道へ進みますが、この授業で得た「本気で地域を思う視点」を忘れずにいたいです。

**高橋先生**：地域と大学を往復しながら「正解のない問い」に向き合い続けることは、決して簡単ではありません。でも、そこで得た気づきは何物にも代えがたいものです。みなさんがここで得た種を、これからの社会でどう育てていくのか、楽しみにしています。



※ 所属は 2026 年 3 月末現在のものです。



RITSUMEIKAN  
UNIVERSITY

立命館大学

サービスラーニング  
センター

SERVICE LEARNING CENTER



MAIL  
ritsvc@st.ritsumeai.ac.jp



サービスラーニングセンター HP  
<https://www.ritsumeai.ac.jp/slc/>

 衣笠  
キャンパス  
KINUGASA CAMPUS



〒603-8577  
京都府京都市北区等持院北町56-1  
尚学館 1階



TEL 075-465-1952  
FAX 075-465-1982



 びわこ・くさつ  
キャンパス  
BIWAKO KUSATSU CAMPUS



〒525-8577  
滋賀県草津市野路東1丁目1-1  
セントラルアーク 2階

TEL 077-561-5910  
FAX 075-561-5912



 大阪いばらき  
キャンパス  
OSAKA IBARAKI CAMPUS

〒567-8570  
大阪府茨木市岩倉町2-150  
A棟1階AN事務室

TEL 072-665-2195  
FAX 072-665-2059



2026年4月発行  
※使用した画像の一部には加工を施したものがああります。



## ボランティア募集等をお寄せくださるみなさまへ

お寄せいただいた情報は、以下の方法で学生に紹介しています。  
掲示板やラックでの配架 / SNS での発信 / 来室した学生への情報提供

### 01 団体登録（初めて広報依頼をされる場合）

サービスラーニングセンターHP「ボランティア募集や地域情報をお寄せくださる皆様へ」に掲載のお手続きの流れをご覧ください。



◀ サービスラーニングセンター  
HP

### 02 団体登録済みの場合

- ① 広報資料をお送りください（郵送 / 窓口へのご持参）
- ② 衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスの各センターに情報提供を希望される場合は、それぞれのキャンパスに広報資料をお送りください

※ 団体情報に変更が生じた場合は、各キャンパスの担当者にご連絡ください。